

将来のあるべき姿の到達度を測定する指標(案)とアプローチ(大阪市二次医療圏)

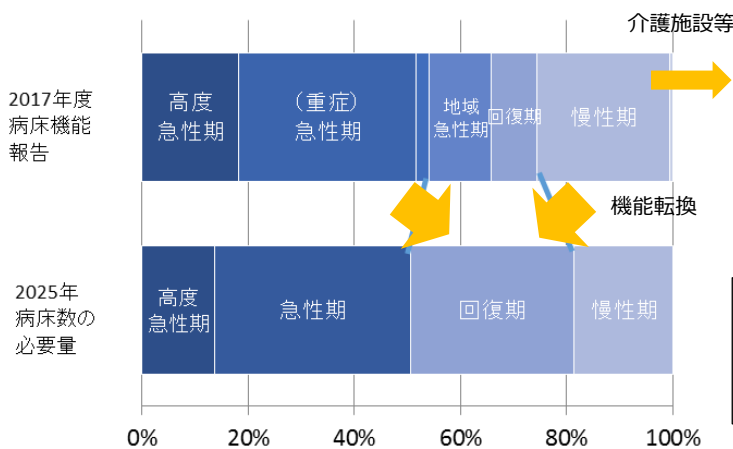
●将来のあるべき姿の到達度を測定する指標(案)について

将来のあるべき姿の到達度を測定する指標として、「将来にむけて回復期への転換が必要な病床」を設定し、今後、地域医療構想の進捗状況をモニタリングする。

病床機能報告の最終集計から、病床数の必要量における「回復期機能を担う病床数の確保」には、他の病床機能から約 10%程度同機能への転換が必要と推計

○病床機能報告(2017年度)と病床数の必要量(2025年)の比較

区分	年度	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	合計	【備考】未報告等	
			(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期						
病床機能報告(病床数)	2017	5,828	15,279	10,752	781	3,746	2,809	8,013	193	32,122	76
				11,533		6,555					
病床機能報告(割合)	2017	18.1%	35.9%	2.4%	11.7%	8.7%	24.9%	0.6%	100.0%		
		↓4.5%		↑1.1%		20.4%		↓6.3%			
病床数の必要量(割合)	2025	13.7%	37.0%			30.7%	18.6%		100.0%		
【参考】病床数の必要量(2017年度報告病床数に対する病床数)	2025	4,392	11,883			9,869	5,978		32,122		
【参考】病床数の必要量(2013年の需要をベースとした病床数)	2025	4,745	12,838			10,662	6,458		34,703		



病床機能報告(地域急性期+回復期)と病床数の必要量(回復期)の割合の差 **10.3%**

【参考】将来に向けて回復期への転換が必要な病床  
 $32,122$  (2017年度報告病床数総計)  $\times$   $10.3\%$   
 = 約  $3,300$  床

**【参考】病床の介護施設への転換が「病床数の必要量」に及ぼす影響**

○2017 年度病床機能報告における介護療養病床（430 床）が介護医療院等へ転換した場合の病床機能報告（2017 年度）と病床数の必要量（2025 年）の割合の比較は下記のとおり。

区分	年度	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	合計	【備考】未報告等	
			(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期						
病床機能報告(病床数)	2017	5,828	15,279	10,752	781	3,746	2,809	7,583	193	31,692	76
病床機能報告(割合)	2017	18.4%	36.4%	33.9%	2.5%	11.8%	8.9%	23.9%	0.6%	100.0%	
病床数の必要量(割合)	2025	13.7%	37.0%			30.7%	18.6%			100.0%	
【参考】病床数の必要量(2017年度報告病床数に対する病床数)	2025	4,333	11,724			9,737	5,898			31,692	

**【参考】**  
**病床機能報告(地域急性期+回復期)と病床数の必要量(回復期)の割合の差 10.0%**

**【参考】病床機能報告（2017 年度暫定集計）と病床数の必要量の比較**

●病床機能報告と病床数の必要量の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期	回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計
病床数の必要量	2013	4,335	10,624				8,525	7,003			30,487
病床機能報告	2014	5,304	16,594				2,162	6,505	160	2,545	33,270
病床機能報告	2015	4,561	16,101				2,446	7,276	400	2,222	33,006
病床機能報告	2016	5,326	15,804				2,515	7,336	296	1,522	32,799
病床機能報告	2017	5,828		10,374	1,347	3,323	2,806	7,574	182	764	32,198
病床数の必要量	2025	4,745	12,838				10,662	6,458			34,703

合計 15,044

区分	年度	高度急性期	急性期	(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期	回復期	慢性期	休棟等	未報告等
病床機能報告	2017	18.5%		33.0%	4.3%	10.6%	8.9%	24.1%	0.6%	—
病床数の必要量	2025	13.7%	37.0%				30.7%	18.6%		

**サブアキュート・ポストアキュート・  
リハビリ機能の現状と将来の予測**

①病床機能報告

地域急性期+回復期 19.5%

②病床数の必要量（2025 年）

回復期 30.7%

**割合の差 11.2%**